

令和6年度 第4回 鳥取市総合企画委員会

日 時 令和7年1月9日（木）14：00～15：40
場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8
出席委員 石本昭雄委員、岡大輔委員、奥谷仁美委員、尾坂亮委員、神田浩史委員、岸本夕子委員、久野壯委員、佐藤翔風委員、下田敏美委員、竹本哲哉委員、田中丈士委員、林由紀子委員、平井耕司委員、前岡美華子委員、山下浩二委員、山根滋子委員、吉田高文委員、米田恵子委員
欠席委員 大橋祥子委員、田中利明委員
鳥 取 市 市長・副市長ほか関係部局長、地方創生推進室（事務局）

<議事概要>

1. 開会

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

本日は、年初めの大変お忙しい中、御出席をいただき感謝申し上げます。委員の皆様には、日頃より鳥取市政の推進に格別なる御理解、御協力、御支援を賜っていることに、心より感謝申し上げます。

令和3年度に策定した現在の第11次鳥取市総合計画も4年目を迎えた。毎年度、計画の進行管理をしているところであるが、改めてこれまでの評価について、中間評価として御報告させていただきたい。

現計画は令和7年度で終了するため、令和8年度からスタートする第12次鳥取市総合計画を策定しているところであり、これまで委員の皆様には3回にわたり、次期計画について様々な御意見をいただいた。改めて感謝申し上げます。

併せて、市民の皆様からアンケートやワークショップで様々な御意見もいただいている。こうした委員の皆様からの御意見、御提言や、アンケートやワークショップでの市民の皆様御意見を基に、第12次鳥取市総合計画の骨子案を事務局でまとめたので、本日はこの案について、皆様の忌憚のない御意見を賜りたい。

石破総理大臣は、地方創生2.0として地方創生をこれからさらに再起動させて取り組ん

でいくと表明されておられる。こうした国の動向も踏まえ、次の10年間は鳥取市にとっても非常に大切な時期になるかと思うので、そのような思いで、我々も総合計画の策定をしていきたいと思っている。

限られた時間であるが、明るい未来を切り拓いていくための皆様の御意見を賜りたいと思っているので、よろしくお願い申し上げます。

3. 委員長あいさつ

【林委員長】

昨年10月に第3回鳥取市総合企画委員会を開催して以来の開催である。先ほど、深澤市長がおっしゃったように、本日は第11次鳥取市総合計画中間評価の報告と、令和8年度から始まる第12次鳥取市総合計画の策定概要について、骨子案が示されるということである。ぜひ、皆様に多くの御意見をいただきたい。

4. 報告

(1) 第11次鳥取市総合計画中間評価について

【西田地方創生推進室長】

資料1「第11次鳥取市総合計画中間評価について」を御覧いただきたい。総合計画の施策評価については、毎年度、評価指標の達成度に基づき評価をしているが、中間評価においては、令和3年度から令和5年度までの各年度における指標の実績と評価を踏まえて、現行計画の目標達成に向けた成果、課題、今後の方向性を確認することと、また、評価結果を踏まえて、目標達成に向けて、具体的な事業への反映をすること、さらに中間評価を通じて、第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略の策定に向けた検討に活用することを目的に実施している。第12次鳥取市総合計画基本計画等の策定作業、主に基本施策ごとの課題の洗い出しや施策の方向の検討に活用できるものと考えている。

2ページを御覧いただきたい。評価の方法について、各施策で設定している70指標について、下の表にあるように、達成率区分に基づいて、「順調／達成」、「概ね順調」、「やや遅延」、「遅延」などの内部評価を毎年行っている。中間評価としては、この3年間の状況をまとめて実施している。

3ページを御覧いただきたい。これは、令和3年度から令和5年度までの各年度の評価指標の達成率区分の分布をグラフにしたものである。なお、各年度とも評価対象外の項目

については除外して集計している。「順調／達成」、「概ね順調」であった評価指標の割合は、令和3年度は69.2%であったが、令和4年度は70.4%、令和5年度で77.3%となっており、目標達成に向けた取組が着実に進んでいると考えている。

4ページを御覧いただきたい。10項目ある政策分野ごとの令和5年度の達成度をグラフにしたものである。下段の、「順調／達成」、「概ね順調」の割合の合計が70%に届いていない要因の1つ目として、新型コロナウイルス感染症の影響で実績が低迷していた指標については、復調傾向が見られるが、目標値は達成しなかったものがこの4政策である。また、要因の2つ目として、農林水産業における課題として、担い手不足や従事者の高齢化、資源管理、自然環境による影響が挙げられると考えている。具体的には、ビジネス環境の変化に対応した生産性の高い活力あるまちづくりという政策のことである。

全体評価としては、達成度は着実に向上していると考えている。先ほどの要因の1つ目については、コロナ禍からの回復に伴い、今後さらに数値の改善が見込まれると考えている。達成度が低い指標については、その要因を明らかにして、目標達成に向けた具体的な取組を進めていく必要があると考えている。

5ページを御覧いただきたい。評価結果の概要として、15ページ以降に掲載している指標ごとの評価結果の一覧を、政策ごとにまとめている。達成度の高い指標の達成率と主な成果、逆に達成度が低い指標については、課題や今後の方向性をまとめている。全ての詳細な説明は省略させていただくが、一部について成果と課題を説明させていただく。

5ページの政策「未来を創る人材を育むまちづくり」の課題と今後の方向性について、少子化と若年層の転出ということで、指標である合計特殊出生率が目標値に対して達成率86.4%と達成できておらず、合計特殊出生率の低下や若年層の転出が依然として課題として挙げられる。少子化の要因を踏まえ、若者の意見を取り入れた実効性のある対策を立案、実施して、長期的視点で課題解決に取り組む必要があると考えている。

7ページを御覧いただきたい。政策「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」の主な成果として、スポーツ活動機会の充実ということで、指標である学校体育館等の延べスポーツ利用者数が目標値に対して達成率190.7%となっている。スマート予約システムの導入により団体登録数も増加しており、利用者が大幅に増加をしているところである。そうしたことで、市民の皆様のスポーツ活動の機会が充実していると考えている。

10ページを御覧いただきたい。政策「人が集う交流のまちづくり」の主な成果として、観光入込客数の回復ということで、指標の達成率が102.0%となっている。コロナ後を

見据えて、情報発信体制の強化や観光客の受入環境づくりに取り組んだことにより、コロナ前の令和元年度の約296万人という実績を上回っている。また、その下の移住定住者数の順調な推移について、指標である移住定住者数の目標値は達成していないものの達成率95.2%ということで概ね順調に移住者数が推移をしており、特に若者、子育て世代の割合が高い状況にある。移住定住ポータルサイトでの情報発信等が効果を上げていると考えている。

○報告1について質疑応答

【竹本委員】

10ページの観光入込客数の回復について、指標の達成率が102.0%ということだが、いわゆる通過型観光ではなく、鳥取市や東部地域の観光消費額がどれくらいであるか把握されているだろうか。またインバウンドがかなり増えているが、これはツアーで来るというよりも個人で来られる方も結構おられる。例えばどういうルートで動いておられるかといったデータは把握されているのだろうか。麒麟のまちといったところは、多分データを取っているのだろうが、そういったものとの連携は鳥取市としてされているのだろうか。

【大野経済観光部長】

3点御質問をいただいた。まず、観光客の入込客数は大きく回復してきているが、消費額の数字を押さえているのだろうかという御質問だったと思う。消費額について具体的な数字としては押さえていない。ただ、私たちが何を重視しているかということ、先ほども触れさせていただいたように、滞在型観光にシフトしていき、しっかりと地域にお金を落とすというところが重要ではないかということで取り組んでいる。実際に宿泊客数自体はかなり伸びてきており、今後、鳥取駅周辺に新しいホテルが2件オープンする予定で、これに伴い400室ほど客室数が大幅に増えていく。ますます滞在型観光の受皿が整備されていくということになるので、さらに力を入れていきたいと考えている。

それから、インバウンドの数字も押さえているのかという御質問について、宿泊客数のうちの外国人観光客の数字は押さえている。これもかなり大きく回復してきており、昨年度はコロナ前を若干下回るくらいのところまで戻ってきていたが、今年度はコロナ前を上回る水準で推移をしてきている。今年は関西万博が開催されるので、集客に向けて県やDMOとも連携しながらさらに進めていきたいと考えている。

最後に、麒麟のまちのデータとどのように連携しているのかという御質問について、観光のDX化ということでいろいろな施策に取り組んできた。DMOもいろいろな観光客の動きがある程度把握できるような仕掛けを今までやってきておられる。今までは分からなかったようないろいろなデータもDMOから出てきているので、そうしたデータも参考にさせていただきながら、次の観光施策に役立てている。

【竹本委員】

おっしゃられるように、やはり滞在型観光、観光消費をしていただくのが大事だと思う。来ていただいても、通過型観光で終わるというのは少しどうかと思うところもある。交通の便の良さもあり、鳥取県中部の温泉や鳥取県西部の皆生や米子の方面に宿泊が流れてしまうということではあまり意味がないのかなと、入込数だけ増えてもどうだろうということをおっしゃっている。

【大野経済観光部長】

おっしゃられるとおり、今まで、例えば鳥取砂丘で観光して宿泊は三朝や湯村などに流れていったような現状がある。なるべく鳥取砂丘だけではなく、中心市街地にも足を運んでいただけるような仕掛けをこれからやっていこうということで、観光コンベンション協会等とも連携しながら進めていこうとしている。そうしたことで、鳥取駅周辺の新しいホテルの宿泊の受皿もいきてくるのかなと思う。また、鳥取砂丘には五つ星のリゾートホテルも予定されているので、富裕層を含めて今までなかったような客層についても、これから集客を図っていきたいと考えている。

【岸本委員】

鳥取砂丘という一極集中の観光地から、少しでも鳥取城跡のほうに観光客を流すことで、滞在型観光に移行していきたいという方向性で、現在、鳥取城跡の賑わいづくりに力を入れておられる。その追い風になる一つとして、鳥取城三階櫓の復元が10年以内の実現可能になることを、先日文化財課から伺った。実現により、どういう客層を取り込んでいきたいのか、入場料を取るのかなど、または、ただ完成したものをPRし集客を取りたいと考えておられるのか。鳥取城跡の賑わい施策を見ると、一応、現在考えがあるということでは分かるが、実際に久松公園付近にカフェを建てることで、キャパシティ的に観光のバス

やトイレ、インフラの整備、足場の良し悪し、また、住民が住んでおられる地域なので、あまり大きな賑わいはしづらいなど、多岐にわたる課題があると思う。文化財課、観光・ジオパーク推進課、都市整備部などいろいろな課題が多岐にわたる。この課題解決に、今後どのように私たちも一緒に取り組んでいくのか、どこに方向性を向けていくのかというところを、久松公園のにぎわい城跡のお祭りに関して、本当に一生懸命考えているところで、何かしら答えが早い段階でいただければ、一緒にその方向に向かって繋げていきたいと思っているところなので、何か御意見をいただければと思う。

【河井教育長】

鳥取城跡の整備事業についてお答えさせていただく。鳥取城三階櫓の実現というお話もあったが、あの周辺を歩いていただくと、現在、中ノ御門渡櫓門の足場が外れて、全容が見えてきており、3月末には工事が完成、4月ぐらいには竣工という予定である。

また、仁風閣の保存修理についても、いよいよ足場を組んで工事に入る下準備ができたというところである。三階櫓については文化庁ともお話をさせていただいているところであり、予算の確保ができれば、例えば基礎的な調査に取り掛かりたいと考えているところである。

【尾坂委員】

中間評価のときに、「順調、概ね順調」の割合が低いものに関しては、課題を一つひとつ潰していけばいいのかなと思うが、「順調、概ね順調」の割合の高いものこそ、再考する必要があると思う。例えば、「未来を創る人材を育むまちづくり」のテーマと達成度を見比べたときに、細分化した目標の定量的な評価としては達成度が高いものの、全体的なテーマと達成度を比べると、少し違和感があるものもあると思う。振り返り項目に何か定性的な評価も含まれているかということ、達成度が高いものに関しても、違和感があるものについては、ちょうど次期計画の検討をするタイミングであるので、再考が必要ではないかなと思う。

【西田地方創生推進室長】

評価方法について、分かりやすく、さらにPDCAサイクルを回す上で、次の改善に繋がるような仕組みを次期計画で改めて考えてみる必要があると思っている。いろいろ検討

させていただき、御提案もさせていただきたい。

5. 議事

(1) 第12次鳥取市総合計画の策定概要について

【西田地方創生推進室長】

資料2を御覧いただきたい。第12次鳥取市総合計画の策定概要について、策定に当たっての視点は、これまでもお伝えしてきており、「鳥取市の「明るい未来」をみんなで作る、みんなで行く」としてあり、行政のみならず市民の皆様や事業者等の全ての皆様が果たすべき役割について明記させてもらい、オール鳥取市で取り組んでいくとしているところである。また、計画の構成についても、市民の皆様にも分かりやすく、読みやすいものにしたいと考えている。

「3. 総合計画の骨子（たたき台）」について、現行の第11次鳥取市総合計画との構成の比較について、別紙1でまとめているため御覧いただきたい。別紙1の右側は次期計画の構成案で、赤文字の項目が2項目あるが、これが現行計画の基本構想にない項目で、新たに追加しようと考えているものである。基本構想については、先ほど申し上げたとおり、市民に読んでいただけるように、また、伝えたいことを初めのほうに持ってくるということ意識した構成にしたいと考えている。

右側の次期計画の構成案を見ていただくと、1章で「策定の趣旨」を述べた後に、2章で「鳥取市ってどんなまち？」としているが、「鳥取市の「明るい未来」をみんなで作る、みんなで行く」ためには、まずは鳥取市がどんなまちであるのかということ改め認識していただくように、鳥取市の歩みや鳥取市の現状などをまとめたいと考えている。3章「鳥取市の10年後はどうなるんだろう？」では、将来の鳥取市のまちづくりの方向を示すまちづくりの理念やめざす将来像、まちづくりの目標などをまとめることとしている。4章「計画の役割、構成及び期間」について、現行計画では初めに記載しているが、次期計画では、後半に記載してはどうかと考えている。5章「第12次鳥取市総合計画の体系」については、施策体系を示したいと考えている。

各項目の詳細について、資料2で説明させていただく。各項目に記載する内容については、四角で囲んでいる「まとめ方のイメージ」として書かせていただいている。「1 策定の趣旨」については、計画策定の目的、役割に加えて、「みんなの住む鳥取市の未来を一緒に考え、行こう」というメッセージを入れることで、まちづくりはみんなで行く

組んでいくものであるという意識づけをしたいと考えている。

「2 鳥取市ってどんなまち？」について、2ページを御覧いただきたい。「(4)都市のすがた」について、多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を掲げているが、引き続き次期計画においても触れたいと考えていることに加え、位置、地勢、面積、土地利用状況といったことも盛り込んでいきたいと考えている。

「3 鳥取市の10年後はどうなるんだろう？」のうち「(1)時代の潮流」について、別紙2で詳しく説明させていただく。鳥取市を取り巻く大きな社会の流れ、また、それに対する影響といったものを認識しながら、時代に即した取組となるように検討を進めていく必要があることから、時代の潮流として8つの項目にまとめさせていただいている。内容についてはまだ整理中の段階であり、盛り込む予定の内容について、箇条書きで、潮流や課題などを丸印の項目に、時代の流れに対応するために求められる事柄を矢印マークの項目にまとめている。

「(1)人口減少、少子高齢化の進行」について、一番大きな時代の潮流と言えるのはこういうことであると思っている。経済の収縮や都市活力の低下、生産年齢人口の減少による労働力不足、若者世代を中心とする転出超過といった課題がある中において、移住・定住の促進や若者に魅力的な雇用機会を創出するといったことが求められているのではないかと考えている。また、現行計画ではなかった項目として、「(4)価値観や行動の変化に伴うライフスタイルの多様化」として、デジタル技術の普及によるライフスタイルの多様化、これはコロナ禍によりさらに加速をしていると言えるところであるし、価値観の多様化や世代間ギャップも進んでいると言えると思う。それに対して、デジタル技術の恩恵を全ての世代に広げて格差を解消したり、多様性を尊重する地域社会の形成といったものが求められているのではないかと考えている。また、「(5)地域経済の成長軌道への転換と地域活力の創出」について、観光需要の回復や物価高騰等による地域経済への影響の深刻化、また、魅力ある地域づくりによる関係人口の創出といった時代の潮流がある中において、地域特有の自然や文化資源を活用した観光振興や、デジタル技術等を活用した産業の高付加価値化、また、多様な交流を通じた滞在機会の創出といったことが求められているのではないかと考えているところである。この内容については、今後整理、精査していきたいと考えている。

再び資料2の2ページを御覧いただきたい。「(2)まちづくりの基本的な考え方」、「(3)まちづくりの理念」、「(4)めざす将来像」については、理念、将来像につい

ての案を作成しているのので、別紙3で説明させていただく。

今年度実施した市民アンケートでは、鳥取市のめざす姿について30文字程度で表現いただく項目も設けていたほか、ワークショップでは、鳥取市の魅力やイメージ、どんなまちになればいいのか、また、そのために自分たちができることなどについて御意見をいただいた。次の時代の鳥取市のまちづくりを考えていく上で求められるものとして、市民アンケートやワークショップ等を通じて、市民等からいただいた御意見も踏まえて整理を試みたところ、この4つの文章に集約できるのではないかと考えている。それぞれの文章の下には、具体的にアンケートやワークショップでいただいた御意見を記載させていただいている。さらに、それぞれの文章から導き出される単語を右側に記載させていただいている。「①一人ひとりの個性が尊重され、自分らしく過ごすことができること」から導き出される単語としては、共生、尊重、寛容といった言葉があると思う。「②若者や子どもが将来に希望を持ち、いきいきと活躍できること」から導き出される単語としては、挑戦、希望、活躍といった言葉があると思う。「③暮らしや交流を支える豊かなつながりがあること」から導き出される単語としては、協働、連携といった言葉があると思う。「④鳥取市固有の資源が大切にされ、引き継がれ、活用されていること」から導き出される単語としては、誇り、愛着といった言葉があると思う。

将来像の表現については、鳥取市の強みを具体的に取り入れるなど、鳥取市ならではの分かりやすい理想像、方向性を示してはどうかというような御意見をいただいているところである。これらのことを踏まえ、まちづくりの理念とめざす将来像の案を作成させていただいている。

別紙3の2ページを御覧いただきたい。「まちづくりの理念」の考え方について、これまでの鳥取市のまちづくりの理念として、第9次鳥取市総合計画では「人を大切にするまち」、第10次、第11次鳥取市総合計画では「鳥取市を飛躍させる、発展させる」としていた。こうしたことをベースにして、第12次鳥取市総合計画策定に当たっての視点としている「鳥取市の「明るい未来」をみんなで描き、みんなで行動する」や前のページでまとめたまちづくりの基本的な考え方も踏まえ、第12次鳥取市総合計画の理念（案）を設定させていただき、「共生・挑戦・協働・誇り」としているところである。これは、前のページの4つの文章から導き出される単語をそれぞれ1つずつ繋げたものである。想いとしては、下にあるように、魅力ある地域資源を持つ鳥取市に誇りを持ち、広く挑戦しようとする心を育み、様々な人々が互いに尊重しながら協力し、共に暮らしていくことのでき

るまちづくりを進めたいという願いを込めたものである。

3ページを御覧いただきたい。めざす将来像の考え方についても、まちづくりの基本的な考え方を踏まえたものとしたと考えているところである。鳥取市には、歴史や文化、自然などの多くの魅力や可能性を持った地域資源があること、また人の温かさや誠実さなど、市民の人柄や気質を含め、それら全体が鳥取らしさを形成しているというふうに見えるかと思う。ワークショップ等で市民や移住者、県外在住の方からお聞きした鳥取らしさ、鳥取市の魅力、イメージの一番最たるものは鳥取砂丘であった。鳥取らしさを大切にするめざす将来像に、それを補完するイメージを伝えるためのキャッチフレーズを設定したいと考えているところである。

3ページ中段を御覧いただきたい。鳥取砂丘とそれに関連して砂丘のオアシスをイメージしてみると、1点目に、美しく輝く砂粒一つずつが砂丘という大きな強みを形づくる、鳥取砂丘の雄大で動じないさまを大きな強みと考えているが、それが先ほどのまちづくりの基本的な考え方の「①一つひとりの個性を尊重」や「②若者や子どもが活躍」といったところに結びつくと言えると思う。2点目に、オアシスにはひと・もの・ことが行き交い賑わうさまといったものもあるかと思う。それが「③暮らしや交流を支える豊かなつながり」に結びつくと言えると思う。3点目に、鳥取砂丘を代表とする美しい景観や自然に囲まれて暮らすということが、「④鳥取市固有の資源を大切に」といったところに結びつくと言えると思う。

このようなことを踏まえ、豊かな自然や文化など鳥取市固有の資源を大切にしながら、一人ひとりの個性を尊重し、支え合い、若者や子どもなどみんなが活躍し、賑わいあふれる鳥取市を目指したいという思いでめざす将来像の案を作っている。案として、「一人ひとりが自分の力を発揮でき 支え合いながら ともに豊かに暮らせる鳥取市」、キャッチフレーズとして、「オアシスとっとり」としている。このオアシスの部分については、上のところで御説明しているように、めざす将来像を包含するような意味合いとして、オアシスという言葉を使わせていただき、キャッチフレーズとして「オアシスとっとり」としてはどうか思いである。

再び、資料2の2ページを御覧いただきたい。「(5)人口の見通し」について、目標とする人口を市民の皆様と共有したいということで、第12次鳥取市総合計画においては、基本構想にも明記をしようと考えている。目標とする人口設定の考え方については、別紙4を御覧いただきたい。人口の見通し(目標とする人口)の考え方について、推計の条件

としては2点ある。1点目、合計特殊出生率について、現行の令和3年3月改訂の鳥取市人口ビジョンにおいては、国の目指す目標値を踏襲し、表の下から2番目の列のとおり、2030年に希望出生率1.8、2040年に人口置換水準2.07を目指すものとしていたが、合計特殊出生率は実績値として逆に低下していることや、国立社会保障・人口問題研究所の推計においても、合計特殊出生率の仮定値が前回よりも下回っているような状況もあることから、目標達成時点を見直し、長期的なスパンで緩やかに目標を達成したいというところで、次の人口ビジョン改訂においては、表の一番下の青い列のとおり、2035年に希望出生率を1.7、2045年に人口置換水準2.07とそれぞれ5年間スライドして目指すということにして推計をしている。

2点目、人口移動数（純移動数）について、転入数から転出数を引いた数であるが、これについても2010年から2015年までの移動率が維持されるという仮定のもと、現行の鳥取市人口ビジョンでは推計していたが、次の改訂においては、それに加え、若者を対象として、移住施策の推進や雇用環境向上等に取り組むことで転入を促進、転出を抑制し、社会減の改善を図り、人口減少を抑制するという仮定のもと推計している。

推計結果について、別紙4の2ページを御覧いただきたい。現行の人口ビジョンで目標とする将来展望人口は青色の点線のグラフであり、2040年に16万7,000人、2060年に14万2,000人と展望している。社人研の平成30年時点の将来推計が赤色の点線のグラフであり、その5年後の直近の社人研の令和5年時点の将来推計が将来推計Aとしている赤色の実線のグラフである。御覧のとおり、将来推計が前回に比べ下方修正されている状況の中で、本市の目標とする将来展望人口、目標とする人口をどのようにしたら良いか考えた結果が、将来推計BとCである。青色の実線のグラフが将来推計Bであり、前ページで御説明した合計特殊出生率を2035年に1.7、2045年に2.07と設定してシミュレーションした結果である。第12次鳥取市総合計画基本構想期間である10年後の2035年に16万8,000人となるが、これは現行の人口ビジョンの目標人口を4,000人下回る数値である。将来推計C、薄紫色のグラフであるが、これはさらに将来推計Bに加えて、移住・定住施策に取り組むことで、移住者数や学生の市内就職率を、2030年に現状の1.2倍にして、その後、それを維持していくと展望したものである。この場合、2035年に16万9,000人、2060年に14万2,000人となり、これが現行の将来展望人口とほぼ同程度の推移となる。次の人口ビジョンの改訂においては、この辺りを目標とする人口にしたいと考えているところである。

再び、資料2を御覧いただきたい。「(6)まちづくりの目標」については、まちづくりの基本的な考え方を踏まえ、めざす将来像を実現するための目標設定を現在検討しているところである。

3ページを御覧いただきたい。「4 計画の役割、構成及び期間」について、基本構想10年、基本計画5年としている。また、実施計画について、現行の第11次鳥取市総合計画では3年以内のローリングということで、毎年策定としている。第12次鳥取市総合計画でも同様に3年以内のローリングをすると当初は考えていたが、総合計画の評価方法も含めて、実施計画の位置づけを再度検討したいと考えているところである。現段階では、基本計画の期間内で策定という表現にとどめさせていただいている。

「(3)第12次鳥取市総合計画と第3期鳥取市創生総合戦略の関係性」について、第3期鳥取市創生総合戦略を構成する施策は、第12次鳥取市総合計画の重点施策とするとしている。総合計画基本計画の基本施策から重点施策となる部分を抜き出してまとめたものが創生総合戦略になると考えている。

「5 第12次鳥取市総合計画の体系」については、現在、庁内の各課と協議をしながら案を作成しているところである。次回の総合企画委員会では、体系案についてお示しできる予定と考えている。

○議題1について意見交換

【田中丈士委員】

資料2の2ページにある都市の姿に、多極ネットワーク型コンパクトシティとある。コンパクトシティはよく聞かすが、多極ネットワーク型の意味するところはどのようなものなのかお聞きしたい。

【山根都市整備部長】

多極ネットワークについて、鳥取市は広域合併を行ったことで、旧鳥取市の部分と合併した区域にそれぞれ地域の拠点がある。旧鳥取市の部分と合併した区域を均衡ある発展、整備していくために、多極型のまちづくりを進めている。一方で、地域が分散、拡大していくと、これからの人口減少社会において行政効率が悪くなったり、人口密度が薄くなってしまふなど様々な弊害が出てくるため、まちをコンパクト化し、様々な施設を集中して配置することなどにより、まちの活力を継続、持続させていきたいということである。

【田中丈士委員】

市域も広くなったし、バランスよくやるといったイメージだと理解した。

もう1点は、別紙4の1ページの合計特殊出生率について、基本的な認識として、この表にあるとおり実績値が2023年まで出ていて、1.4や1.5といった値が鳥取市の現在の姿だろうと思う。H30社人研推計、そしてR5社人研推計があり、これがかなり減っているという厳しい状況になっている。そして、人口ビジョンと人口ビジョン改訂案が、市が目指す合計特殊出生率の目標みたいなイメージだと思う。2040年の人口置換水準2.07が、要は人口が減らない合計特殊出生率ということだと思うが、2人以上産まないで減るわけで、中には何らかの形で早く死亡する人がいらっしやるので、2.07ぐらい必要だということだと思う。実際に社人研推計の1.44や1.48といった数値が実際の数字と近いところだが、これを2.07に持っていくというのは、やはり非常に難しいのではないかと思う。市としてはこれを目指すということだろうか。

【西田地方創生推進室長】

社人研はあくまで将来推計ということで合計特殊出生率を出しているが、国は現行の長期ビジョンにおける目標値ということで、国民の希望する出生率として希望出生率1.8を、人口置換水準についても2040年に2.07を目指していくと掲げている。国がそうした目標を掲げている中で、地方または鳥取市においても、やはりそうした目標を目指すべきだということで、現行の人口ビジョンもそうした合計特殊出生率の目標を設定しているところである。

次の人口ビジョンの改訂については、まだ国の新しい目標値が示されていないが、合計特殊出生率が低下をしている中で、現行の希望出生率1.8を2030年に、人口置換水準2.07を2040年に目指すことは難しいと思い、後ろ倒しにスライドさせながら、ただあくまでやはり最終的には人口が減らない人口置換水準に持っていくことを目標にするべきではないかと考えており、鳥取市としても、次の人口ビジョン改訂についてはこうした合計特殊出生率の数値を用いたいという思いである。

【田中丈士委員】

理解したが、多分なかなか難しいとは思う。例えば、市の将来的なずっと先の計画を考

えるとき、合計特殊出生率2.07だと人口がこのぐらいで、若い人がこのぐらいいて、だから、小学校はどのくらい必要かとか考えると、この2.07を基に計算すると、多分すごく乖離があって、実際には1.5や鳥取市の場合は頑張っても1.6とかだろうなと思う。全国では1.2くらいで、国もずっと頑張っているが多分ほとんど効果が出ない。それなりの社会的な変化があるので、この数値設定をいきなり捨てるというのは行政として難しいだろうと思う。ただ、実際には実態に応じた考え方もしていけないのかなと思う。人口が減るのはもうやむを得ない。ただその代わりにこういう豊かな社会を目指すといった発想の転換も必要なのではないか。例えば、1人当たりのGDPもどんどん日本は下がっている。この前の推計では韓国よりも日本のほうが下がった。ただ、そうはいつでも実態を見ると日本は非常にまだ豊かであり、それは社会的な基盤がずっと昔から積み上げてきたものがあって豊かなのだろうと、数字だけでは表せないところがあって、韓国と比べても多分社会的なところは豊かだとは思う。ただどういう国を目指すという意味でいけば、人口も少なくなっても、それに合わせた施策をしていけないのかなと思った。

【平井委員】

この合計特殊出生率が、恐らく足元からすると非常に難しいということは、我々以上に行政の皆様方が非常に認識されていると思っている。そのため、毎回こうした人口減少の推移表が出てくるのだろうと思っている。この自然減を回復しようとする、出生率、出生数をいかに上げていくかで、これは良くなっても数字に表れるのは何十年先ということであるので、この数字の達成は申し訳ないが、なかなか難しいと思っている。

我々商工関係からすると、人口減少が進む中であって、その中でも働き手である15歳以上65歳未満の若い層が、今非常に少なくなっている。そこがないのに、実際本当に増えるのかなと疑問に思う。毎月のように鳥取市報を見ているが、最近の鳥取市の人口が18万人を切ってしまったというような現実がある。確かに理想は理想として受け入れなければいけないが、現実としては非常に難しいので、第12次鳥取市総合計画においては、鳥取市民の方々がある程度納得されるような数字を考えないと、机上の空論になってしまったりは反発を受けることになるので、そうしたところを少し丁寧に記載していただけるとありがたい。

皆さんも御存じのとおり、鳥取市内も外国人が今非常に増えている。外国人労働者も非常に増えているので、そうした方々が鳥取でも住めるような受入環境を少しでも整備し

ていけばこの数字も近づくとと思う。そうした外から来ていただけるような施策もぜひ第12次鳥取市総合計画には盛り込んでいただき、少しでも人口減少が抑制できるような具体的な施策をぜひとも入れていただきたい。

【奥谷委員】

手持ちの第11次鳥取市総合計画を見ながらいろいろ評価などを見ていたが、ボリュームが結構あり、関わっていてもなかなか読みづらいとすごく感じた。熊本市総合計画を比較して見たが、90ページぐらいの分量だった。コンパクトにまとめられていてすごく見やすく、これだったら読んでみようかなと思った。オール鳥取市ということで、若者にも読んでもらうということであれば、ある程度デザイン性や見やすさ、言葉の使い方などをストレートに分かりやすい表現にさせていただくなどされたらすごく良いのかなと思った。

私の20代の子どもに、この総合計画のめざす将来像のキャッチコピーについてどう思うか聞いてみた。オアシスととりの考え方の説明も、こういうイメージでこういう将来像、案を鳥取市は出していると説明し、聞いてみた。そうしたら、何か陸の孤島感がすると、あと余生を過ごすイメージだったらゆったりして何かオアシスというのもいいかなと思うが、若者の視点から言うと少し違うかなとかいう感じを受けたという意見を言っていた。あくまで1つの若者の意見として捉えていただければと思うが、私もオアシスととりって聞いたときに、ちょっと昭和っぽいかなという感じがしたので、1つの意見として伝えさせていただく。

【米田委員】

まちづくりの理念で4つの言葉があるが、並び順が変わるとイメージも変わってくると思う。若者や子どもの活躍をしっかり後押しするという意味で、挑戦が最初にあると、何か元気があるという気がした。今の案は共生が最初にあり、人権を大切にというようなことで最初に来ているのかなと思うが、少しおとなしいかなという感想をもった。

【岡委員】

10年後の鳥取市を考えるとということで、次期計画の構想案の趣旨として、市民の方々にもつくることから入っていただきたいという想いなのかなと思う。別紙1の次期計画の構成案の「1 策定趣旨」として、こういう趣旨ですよと、「2 鳥取市ってどん

なまち？」は、現状の鳥取市をお示しするということだと思う。お聞きしたいのが、「3 鳥取市の10年後はどうなるんだろう？」について、これは何というか現状の報告、推移の報告だと感じる。ただ、中身の説明を聞くと、実際にこれから10年間こういうふうにやっていきますという挑戦の部分が含まれているようである。ここは、計画に盛り込む部分なのかなと思うが、ここも一緒に考えようということかもしれないが、内容として現状の報告と推移の報告とこれからこんなことをやっていくという要素が一緒になってしまい、わかりづらいかと思った。

【西田地方創生推進室長】

まずは、「鳥取市ってどんなまち？」というところが現状やこれまでの鳥取市の歩みを含めて認識していただくところで、その10年後はどうなるんだというところが、10年後とは言いながらも、まずは時代の潮流を踏まえた上で、将来の鳥取市を描いていこうという流れにしている。

まちづくりの基本的な考え方も、現状を踏まえて、将来どういったまちにするべきなのかについては、市民の皆様からのアンケート等の意見を踏まえてまとめたいと思い、それらを踏まえて、まちづくりの理念やめざす将来像を描きたいと考えている。計画策定の過程において、市民の皆様等の意見も十分踏まえてつくったものを活用して、めざす将来像、めざすまちに向けて、市民の皆様も一緒になって取り組んでいただくということで、基本計画で記載する個別の施策の中では市民や事業者、団体等の役割などを明記しようと思っている。10年後のめざす将来像に向けて一緒にやっていこうというつくりをしたいと思っている。

【久野委員】

地方創生の肝は人口減少をいかに食い止めるかだと思うが、そこを中心にもっと具体的にまとめることはできないのかなと思う。別紙3の1ページ目の②が肝だと思う。若者や子どもが将来に希望を持ってこの地域で活躍できるか、人口減少を食い止める、10年前に消滅可能性自治体がどこだとはっきり出て、また最近も同じような本が出ているが、やはりものすごく努力しないと食い止めることはできないだろうと思う。特に、我々の集落はこれから何軒なくなるかなという寂しい話を年末年始にした。例えば、時代の潮流の(1)に、子育てのしやすさはどうかといった項目を立て、または細かいところまでは不

要だが、計画で20代、30代の女性がどれだけ大切にされるまちなのかといったことも表せないだろうかと思う。

また、別紙1で少し気になったことは、「2 鳥取市ってどんなまち？」はまちで記載されているものの、(4)は都市のすがたとなっており、これは都市がいいのか、まちではいけないのだろうかと思った。

世代間で意識や考えが、大分違ってきている。だから世代間の統一的な啓発も必要だと思うし、大胆な施策を打っていかないと、人口抑制は歯止めがかからないのかなと思う。

【田中丈士委員】

岡委員の発言と同じ感想を私も受けた。別紙1の「2 鳥取市ってどんなまち？」、それから「3 鳥取市の10年後はどうなるんだろう？」について、何か区別がつきにくいといった違和感があるとおっしゃっていたと思う。多分、2番はおっしゃったように、鳥取市の今の姿がどうということであり、3番はこれからどうなるんだろうということだが、どうなるんだろうというのは、何にもせずこうなるみたいなイメージがある。例えば、鳥取市の10年後はどうすればいいんだろうみたいなイメージではないかと思う。

【林委員長】

どんな形でこれを皆さんにアピールする言葉にしていくかというところがあったほうがよいということだろうか。

【田中丈士委員】

そう思う。だから、こうしたいという感じが出たほうがいいと思う。どうなるんだろうだと、何かいかにも放っとしてもこうなるみたいなイメージだが、こうしたいというところを言葉で言ったほうがいいかなと思う。

【石本委員】

合計特殊出生率について、田中委員や平井委員がおっしゃったように、私も数字に非常に違和感を持っている。東アジアの周辺国、韓国、中国、台湾、日本、この4か国の中で出生率が一番高いのは日本である。韓国などは1.0を下回っている。そういう時代に、この2.07という数字を、国が目標にしているからといって、それをスライドさせるという

考え方は、それはそれで分かるものの、この数字を見たときに、多くの市民の方が、この計画全体に対する信頼感や共感性というものを大きく落としてしまうのではないかという心配も持っている。この数字を下げしていくことは、自治体としての方向性としてもなかなか難しいだろうと思うが、ではその2.07という数字がいきなり出てくるということに関して説明できる材料がどれだけあるかという、やはり厳しいものだというふうに思わざるを得ない。

もう一つ、市の自治連合会で、去年、四国の丸亀に先進地視察に行ったり、それから、鳥取市、姫路市、岡山市の3市で毎年やっている合同研修会、こういうもののテーマは揃って防災であり、今、非常に地域で関心が高い事柄という防災ということになる。昨年、南海トラフ地震が身近になってきて、ますますそういう感じが膨らんできている。南海トラフ地震が起きたときにどうなるかについて、素人考えであるが、鳥取市に対する直接的な被害はそれほど大きなものではないと思う。震度にしても4や5といった数字だと思う。何が恐ろしいかという、南海トラフ地震で日本列島の太平洋側が関東から九州まで甚大な被害を被った場合、その間接的被害は途方もないものだと思う。言ってみれば、80年前の敗戦以来の大きなダメージになるのではないかと思う。物流が途絶えることはもちろんだが、あらゆる社会システムや経済システムというものが崩壊していく中で、鳥取市がそのときどういう状態になるか、そんなことは国が考えればよいということもあるかもしれないが、その国にしても、国家の財政や税制そのものが5年、10年にわたって崩れていくような大きな被害が想定される。その場合に、鳥取市はこの10年先の総合計画を立てるに当たって、現在の総合計画の中でも鳥取市周辺で起きたことに対する防災の考え方は、当然組み入れておられると思うが、南海トラフ地震のような巨大災害が起きたときに、間接的に被害を被る鳥取市が、そのときにどうするのか、そうしたことは鳥取市の総合計画では知ったことではないという考え方もあるかもしれないが、人口18万人の市民の生活を預かる鳥取市の考え方として少し無責任ではないかということも感じている。南海トラフ地震のような巨大地震が起きた場合にどうするかを総合計画の中に明文化して定めろということではないが、10年のうちには結構起こる可能性があると思う。今年起きてもおかしくない、そういうレベルのリスクに対して、常にこの総合計画というものを立てるときの視点というか、覚悟として、そういうことが起こったときに鳥取市はどうしていくんだということを常に心に留めながら、総合計画をつくっていただきたい。これはあらゆる分野に関連してくることだと思うので考えていただけたらと思う。

【神田委員】

めざす鳥取市の姿、10年後の鳥取市の姿をこれから考えていく上で、一つの具体的な指標として、人口構成のバランス、特に若者がどれだけ入ってきているか、構成しているかを指標で表すことは、今後検討されているだろうか。

やはり地域が生きていくために、若者が働く場所、生活する環境が非常に大事である。合計特殊出生率の話もあったが、これから子どもを産んでいくところで、若者の数、若者がこれから生まれてきたり、移住してきてくれたり、地域にとどまってくれたりするといった、まさにこれからのことが10年後にとても分かりやすく指標として出てくるのかなと思う。10年後の鳥取市の姿として、そうした人口構成のバランス、特に若者がどれだけ入っているかという指標が検討されているのだろうか、検討されているとしたら、どのような形で検討されているかお聞きしたい。

【西田地方創生推進室長】

資料4の人口ビジョンの将来展望人口のところでも、純移動数について、移住者数や学生の市内就職率を1.2倍にするという仮定もしている。やはり若い方にいかに残っていただくか、また、帰ってきていただくかという移住施策の取組を将来展望人口に反映させていきたいと考えている。将来を展望すると、その人口に向かって施策を進めていかないといけないということは当然であると思う。具体的な指標としての検討はまだできていないが、若い方をどれだけ増やせるのかということは指標としても設定する必要があるのではと考えているところである。

【奥谷委員】

将来像のキャッチコピーの話で、熊本市総合計画では、上質な生活都市ということを経営コピーでつくられている。初めのほうにビジョンなどいろいろ書いてあり、対策の方向性や人口減少の抑制ということも書いてあるが、やはり人口減少への対応ということで明確に総合計画の中にも入っているので、ぜひそういったところを出していかれたほうが良いと思った。

人口減少というところで、子どもが輝けば子どもが希望を抱くまちということを経営市の場合にはビジョン1に入れておられる。そういったところの整合性を取り、見やすいよう

な形に政策を立てていただけたらと思う。

【平井委員】

今日は、第12次鳥取市総合計画の構成案を説明いただき、各委員からいろいろな御質問、御意見が出たわけだが、こうした総合企画委員会もそう回数があるわけではなく、もうすぐこの計画は策定していくと思うので、できればある程度総論は分かったので、次回には多少具体策を出していただき、しっかりそこで練れるような会にさせていただけると非常にありがたい。

【深澤市長】

委員の皆様におかれては、大変限られた時間であったが、非常に熱心に御議論いただいたことに、またいろいろな具体的な御提案、御意見をいただいたことに、心より感謝を申し上げます。

田中委員、平井副委員長、石本委員から共通して、今のこの2.07を目指すという合計特殊出生率の数値設定は、少し現実的ではないのではないかと、市民の皆様が御覧になられてどうかといった御意見をいただいた。私もそのとおりではないかと思う。全国的には2008年に人口のピークを迎えて、それから急激に減少に転じて、今、減少の途上にあり、これを鳥取市で食い止めていくというのは至難の業ではないかと思うので、少し現実的な内容にしていくことも検討していく必要があるかなというふうに、改めて皆様の御意見をいただいて感じたところである。

人口が減少する中で、成熟社会という言い方もできると思うが、そうした社会を迎えようとしている。人口が減少しても社会が機能するといったことをどうしたら実現できるかといった考え方に立つ必要があるのではと思っている。豊かな社会をどう構築していくかということで、いろいろな要素があるわけであるが、そのようなことをこの先5年、10年で考えていく、非常に大切な時期にあるのではないかと考えているので、いただいた御意見も参考にさせていただきたい。

石本委員からは、南海トラフ地震等が現実的に語られている中で、それは国が考えることではないかということではいかがなものかという御意見もいただいたが、全くそのとおりだと思う。昨年8月8日に日向灘を震源とするマグニチュード7.1、最大震度6弱の地震が発生したときに、国は初めて南海トラフ地震臨時情報を発出して注意喚起をされた。

鳥取市もこのような情報を市民の皆様にお伝えして、注意をしていただくようにということと初めて行ったところであり、こうした大地震も現実的なものとして考えていかなければならない。日本が壊滅的な被害を受けた場合に日本が機能するためには、やはり山陰地方、鳥取を含めて、日本海側がしっかりと機能していかないと国が立ち行かないというようなことをみんなで考えるという時代になったと思っている。企業におかれても、現実にリスク分散を行っておられるところも既にたくさんある。

国でも国土強靱化のための5か年加速化対策に取り組んでいる。来年度は最終年度ということで、次の取組を具体的に進めていただくように、鳥取市も含めて国交省や総務省などいろいろなところに働きかけをしている。そうしたことも地方自治体の総合計画に書き込むことは難しいところもあるが、実際にはそうした認識の上で、いろいろな要請活動も行っている。地方から国を変えていく、支えていくといったことが地方創生2.0の大きなテーマ、課題ではないかと思っている。御指摘いただいたこともしっかり受け止め、いろいろな活動等をこれからも続けていきたい。

奥谷委員からは、熊本市総合計画を御紹介いただいた。熊本市を含めて、他自治体の総合計画等も参考にさせていただけるところはいろいろ取り入れさせていただきたいと思う。いくつかの市の総合計画等も、実際にこれはいいなというのがあり、そうしたものも参考にさせていただくことにしているところである。

また、別紙1の2番と3番が、いろいろな現状とめざすところが少し混在しているのではないかというお話もいただいたので、表現も含めて、もう少し市民の皆様に分かりやすくお伝えできるように考えていきたい。

平井副委員長からは、回数も少ないので、次は具体策をまとめて示すようにというお話しをいただいたので、そのようにさせていただきたい。

何回も申し上げるが、これから先の5年、10年というのは、鳥取市にとっても、我が国にとっても、非常にターニングポイントになる重要な時期だと思う。そういった思いで、次期総合計画に向かっていきたいと思うので、引き続きよろしく願い申し上げます。

6. その他

7. 閉会